

(様式5)

調査報告書

外部評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------------|-----------|
| I. 理念に基づく運営 | 11 |
| 1. 理念の共有 | 2 |
| 2. 地域との支えあい | 1 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 3 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 3 |
| 5. 人材の育成と支援 | 2 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 2 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 1 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 1 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 6 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 1 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 2 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 2 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 11 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 9 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 2 |
| 合計 | 30 |

| | |
|---------|-------------------------|
| 訪問調査日 | 19年 8月 28日 |
| 調査実施の時間 | 開始 10時 00分 ~ 終了 15時 00分 |

| | |
|-------------------|--------------------------|
| 訪問先事業所名 (都道府県) | ヴァイラ おたつ めたつ (鹿児島県) |
|-------------------|--------------------------|

| | |
|----------|---|
| 評価調査員の氏名 | 氏名 <u>浜田 千里</u> 氏名 <u>中村 朋美</u> |
| 事業所側対応者 | 職名 <u>管理者 事務長</u> 氏名 <u>福元 久和 橋口 渉</u> ヒアリングを行った職員数 4 名 |

※記入方法

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

※項目番号について

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年9月1日

【評価実施概要】

| | | | |
|-------|--|-------|------------|
| 事業所番号 | 鹿児島県指定第4678000177号 | | |
| 法人名 | 特定非営利活動法人環境福祉サービス | | |
| 事業所名 | グループホーム ヴィラ おたつめたつ | | |
| 所在地 | 鹿児島県熊毛郡中種子町納官5173番地 (電話) 0997-24-8557 | | |
| 評価機関名 | NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 鹿児島県鹿児島市星ヶ峰4丁目2番6号 | | |
| 訪問調査日 | 平成19年8月28日 | 評価確定日 | 平成19年9月26日 |

【情報提供票より】 (19年8月10日事業所記入)

(1) 組織概要

| | | | |
|-------|---------------|----------------|-----------|
| 開設年月日 | 平成 15年 10月 1日 | | |
| ユニット数 | 1 ユニット | 利用定員数計 | 9 人 |
| 職員数 | 11 人 | 常勤 3人, 非常勤 8人, | 常勤換算 6.6人 |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|--------------|--|--|
| 建物構造 | 木造 造り | | |
| | 1階建ての ~ 1階部分 | | |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|------------|----------------|----------|
| 家賃(平均月額) | 21,000 円 | その他の経費(月額) | 5,000 円 |
| 敷金 | 無 | | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 無 | 有りの場合 償却の有無 | 有 / 無 |
| 食材料費 | 朝食 | 300 円 | 昼食 300 円 |
| | 夕食 | 300 円 | おやつ 円 |
| | または1日当たり 円 | | |

(4) 利用者の概要 (8月 10日現在)

| | | | |
|-------|-----------|---------|---------|
| 利用者人数 | 9 名 | 男性 5 名 | 女性 4 名 |
| 要介護1 | | 要介護2 | |
| 要介護3 | 3 名 | 要介護4 | 5 名 |
| 要介護5 | 1 名 | 要支援2 | |
| 年齢 | 平均 88.2 歳 | 最低 79 歳 | 最高 94 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|-----------------|
| 協力医療機関名 | 田上病院 田上診療所 田中歯科 |
|---------|-----------------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

景色の良い高台に立地している。『一人ひとりが主役・積極的な地域との交流』を理念に掲げている。集落の方が野菜等を持って立ち寄りたり、隣接のデイサービスの利用者との交流や、地域や学校の行事に参加するなど、地域に根ざしている。職員は入居者から笑顔で「おおきんな〜(おおきに、ありがとう)」と言われるケアを常に目指している。職員の思いと家族等の信頼関係、及び地域の方々とのふれあいがあいまって、地域密着型サービスを実践しているグループホームである。

【重点項目への取組状況】

| | |
|-------|---|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 段階的な研修を受講し、研修後は報告や伝達がされて、職員間の共有ができています。緊急時の手当については、マニュアルの整備や管理者、看護師による伝達がなされています。本人や家族等の状況や意見をもとに職員は、家族等の来訪時に意見交換やカンファレンスを行い、本人本位の介護計画を作成し、家族にも報告しているなど改善がみられた。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 管理者・職員ともに評価の意義を理解した上で自己評価を行い、改善課題について話し合い、サービスの質の確保に活かしている。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 運営推進会議は、行政関係、地域町内会の方々の積極的な参加があり、幅広い委員で構成されている。評価結果や事業所の取り組み内容が討議され、災害対策への協力体制やサービスの質の確保等に活かされている。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 面会時や行事参加の折に近況を報告している。遠方の家族等には文書、電話、ホーム便り等で報告し、家族の意見・苦情・不安などに対応しながら運営に反映させている。 |
| 重点項目④ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 地域で行われる福祉まつりや小学校の運動会に参加したり、近所の方が野菜等を持って来たりしている。また、地域の人々が運営推進会議に参加することにより、災害対策の協力関係が構築されて交流は盛んに行われている。 |

2. 評価結果（詳細）

主任調査員 浜田千里 同行調査員 中村朋美

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|------|---|--|----------------------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 地域密着型サービスの意義とその人らしく暮らせる支援を職員全員で確認し、家族や地域との交流を重視した理念を作り上げている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 理念をホールに明示している。朝のミーティング時に唱和し、毎月の会議で話したり通信に明記して理念に基づいたケアに活かしている。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地域福祉まつりや小学校の運動会など、地域行事に参加したり、近所の人が野菜を持って来る等、交流は盛んに行われている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 管理者・職員はともに評価の意義を理解した上で自己評価を行い、改善課題について話し合い、サービスの質の確保に活かしている。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は、行政関係、地域町内会の方々の積極的な参加がある。幅広い委員で構成されており、評価結果や事業所の取り組み内容が報告され話し合われている。災害対策への協力体制ができるなどサービスの質の確保等に活かされている。 | | |

ウイルス おたつ めたつ

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|------|--|--|----------------------|-----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 定期的開催される運営推進会議への参加があるほか、市の窓口担当者には、事業所の実情を報告して相談や指導を受けている。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている | 面会時や行事参加の折に近況を報告している。遠方の家族等には、文書、電話、ホーム便り等で報告し、金銭管理は出納帳をコピーして領収書と共に定期的に報告している。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族等の来訪時や行事参加の折に意見や要望を出してもらっている。出された意見や要望等は話し合い、運営に反映している。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 馴染みの職員が継続して支える体制になっている。職員と入居者、家族との信頼関係ができています。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 外部研修は、段階に応じて全職員が交代で参加している。内部研修では、法人内の交換研修に参加して職員の技術や知識の向上に努めている。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 他グループホームを訪問したり、見学を受入れて意見交換をする等交流を図っている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|---------------------------------------|------|---|---|----------------------|----------------------------------|
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 居宅からの入居者が殆んどである。訪問や見学をしたり、レクリエーションに参加してもらい職員と馴染みながら信頼関係を築き、不安なく入居できるように取り組んでいる。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 昔の風習や行事、菜園の手入れ、食事の味付け等、職員は入居者に教わったり、触れ合うことを大切にしながら入居者から学び、支えあう関係を築いている。 | | |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入居時に一人ひとりの生活や希望、意見の把握をしている。個々への関わりの中で、入居者の言動などから意向を把握している。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人の心身の状況や家族等の意見、要望をもとに、家族等の来訪時に意見交換やカンファレンスを行い、本人本位の介護計画を作成し、家族に報告している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 定期的に見直しを行い、評価をしている。家族等には、来訪時に担当者会議に参加してもらっている。また、状態変化に応じた見直しも行っている。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|------|---|---|----------------------|--------------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 本人、家族等の状況に応じて、通院、外泊、外出、墓参り等、必要な支援を行っている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族が希望している入居以前からのかかりつけ医の受診を、継続できるように支援している。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 終末期に対する家族等の意見や医師との話し合いは行っているが、はっきりした指針は定められていない。 | ○ | 終末期についての対応指針を定め、支援につなげていく取り組みを期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 入居者の誇りやプライバシーを損ねないように、声かけや対応に留意している。個人情報の取り扱いについては、契約時に同意をもらっている。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 食事時間、起床や就寝時間等その人の生活リズムに留意しながら、本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。 | | |

ヴィラ おたつ めたつ

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|------|---|--|----------------------|----------------------------------|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | おしぼりを配ったり、下膳など、できる事を職員と一緒にやっている。職員も一緒に食事を楽しみながら支援を行っている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 入浴は入居者の希望に応じて毎日入浴できるように準備している。清拭などきめ細かな支援をしている。 | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 歌をうたったり、菜園作りやドライブ、散歩のほか美容院や墓参りへ行く等、一人ひとりの得意な事、好きな事に力を発揮してもらいながら、楽しみごとのある生活ができるように支援している。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | ドライブや散歩、デイサービスの利用者との交流など一人ひとりの希望する外出の支援をしている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 日中は施錠せず、入居者、来訪者は気軽に出入りしている。夜間は防犯のため施錠している。 | | |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 隣接のデイサービス、地域消防団、住民の方々の参加のもと避難方法など、指導を受けながら火災訓練を行っている。災害に備えた食料品の備蓄もされている。地域住民との協力体制ができています。 | | |

| 外部評価 | 自己評価 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | ○印 (取り組みを期待したい項目) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------------------|------|---|---|----------------------|-----------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 入居者の必要な食事量、水分量を記録している。一人ひとりの栄養摂取状況の把握に努めている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1) 居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用空間の天井は吹き抜けになっており、明るく風通しの良い居住空間である。ホールには畳の間やソファが有り、家庭的な家具や季節を感じる植物が置かれて、居心地良く過ごせる工夫が随所にみられる。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ベッド、寝具、タンス、扇風機、エアコン、位牌等それぞれ入居者の馴染みの物が持ち込まれて、その人らしい個性のある居室になっている。 | | |

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。